

# 1945年8月9日、午前11時2分

1945（昭和20）年8月6日午前8時15分、広島に人類史上初めての原子爆弾が投下されました。その3日後の8月9日午前11時2分、長崎の上空で2発目の原子爆弾がさく裂しました。

この爆弾は、広島に投下されたウラン235を原料としたものと異なり、プルトニウム239を原料にした、より強力な原子爆弾でした。

爆発により、巨大な火の球が現れ、「太陽が落ちた！」と思うほどでした。火の球は太陽の100倍もの明るさで、中心部分は数百万度であったと推定されています。また、強烈な熱線、猛烈な爆風、ぼう大な放射線を放出し、爆心地を中心とした広範囲を一瞬のうちに襲いました。

熱線は、爆心地では地表の表面温度が3,000～4,000度に達しました。強烈な熱線によって焼かれた人々は重度の火傷を負い、多くの人が亡くなりました。また、その後に発生した火災も被害を大きくしました。



溶けた6本の瓶  
(長崎原爆資料館所蔵)

爆風（衝撃波）は、1キロメートル離れた所で秒速160メートルに達し、分厚い鉄筋コンクリート造りの建物以外はすべて壊しました。爆心地から2キロメートル離れた所でも巨大な台風なみの秒速60メートルの強い風でした。

このため爆心地帯となった浦上地域の学校、病院、工場は壊れ、そこで働いていた多くの職員や生徒、動員されていた学生のほとんどが亡くなりました。

放射線は、人の身体に入り、いろいろな細胞を壊します。傷つけられた程度は身体に受けた放射線の量によって異なりますが、見た目は無傷であっても放射線を受けたために亡くなった人たちがたくさんいます。また、生きのびた人でも時がたつにつれてさまざまな病気（白内障・白血病・ガンなど）の症状が現れ、今も後障害に苦しんでいます。

このように、原子爆弾は、多くの人たちの生命を奪い、家族を失わせ、まちを破壊し尽くしただけでなく、生きのびた人の心と体に、深い傷を刻み込みました。

## 被害状況（1945年12月末までの推定）

※当時の推定人口約24万人（1945年5月31日時点の配給人口）

死者 73,884人

負傷者 74,909人

原爆資料保存委員会報告（昭和25年7月発表）

## 長崎型原爆（ファットマン）

長崎に投下された原爆は、長さ3.25メートル、直径1.52メートル、重さ4.5トンあり、その形状からファットマンと呼ばれていました。

爆発の際のエネルギーの内訳は、爆風が約50%、熱線が約35%、放射線が約15%で、これらが複雑に絡み合っ



長崎型原爆の原寸大模型  
(長崎原爆資料館にて展示)